

1. 本年度の保育の重点

- (1) ほめてのばす保育～子どもの良いところをタイムリーにほめるように心がける。
- (2) 音楽に力を入れた取組～青組(年長)で新しく音楽の活動に取り組む。
- (3) 教育水準の確保～コロナ禍においても最大限の効果が得られる教育を追究する。

評価段階 A とても思う B そう思う C あまり思わない D まったく思わない

分野	評価項目	自己評価
教育内容について	①今年度の運営の重点「ほめてのばす保育」「音楽に力を入れた取組」「教育水準の確保」を達成できるよう努力しましたか。	B
	②子どもの発達段階や興味関心、教育要領を踏まえて計画的に保育にあたりましたか。	B
	③恵まれた自然の中での遊びを通して、豊かな心や健やかな身体を育む保育に努めましたか。	A
	④子どもとの信頼関係を基盤とし子どもが安心して自分らしさを表現できるようにする保育に努めましたか。	B
	⑤遊びを通して子どもの意欲や興味・関心を広げ、様々な気づきや学びが生まれるようにする保育はできましたか。	A
	⑥人との関わりを通して、人と関わる楽しさやお互いを大切にする心を育む保育はできましたか。	A
	⑦社会生活を送る上で必要な習慣や態度を身につけ、社会の中で健康で楽しく生活できる態度を育む保育はできましたか。	B
	改善策	改善策に対する評価
コロナ禍による制限の中、保育内容や行事等を見直しながら進めてきた。最善の方法を考え行ってきたが、保護者からは、外遊びや戸外での活動が少なかったのではとの意見や、行事について具体的な意見、要望があった。環境を生かした保育、活用の仕方の工夫、それに加え子どもたちの姿、戸外活動の様子等を保護者に伝えていく必要があった。それらの反省を踏まえ、次年度に向け教師間での細かな打ち合わせ、伝え合いがより重要な状況であることを再確認し、保育についての見直しをしていきたい。	A	
学校関係者評価委員による意見		
<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちの考え方などに変化なく、通年通りを心がけて保育に当たっていると認識している。ただ、親の中での意見の分かれ方が非常に幅広かった。園の判断について残念に思うものもあったが、納得している。 ・恵まれた自然を生かし、自立心や共同性を育む保育が具現化されていると思う。コロナ禍でありながらも、活動を充実させる努力を積み重ねられていることが分かった。 ・今年度、コロナの影響で通常の保育が制限される中で保護者のニーズに応えるのが難しい状況だった。次年度は保護者のニーズに少しでも応えられる保育方法を考えていくことが求められると思う。また、教師間の伝え合いを具体的にどのようにするのかを次年度の目標に掲げてみてはいかかが。 		